

校外学習を創る(3) —「現場」としての江戸・東京—

3学年 田崎 義久 柴田 翔 大根田友萌
金子 真也 上野 佳代 末岡 敏明

本校第3学年の校外学習は上野公園を中心に行われる。例年、その内容としては、博物館・美術館等の見学と「班別自主行動の練習」を行っているだけである。しかし、上野公園や東京駅などの周辺には、社会や理科や国語の授業で学ぶ内容の「現場」があるのであり、それを生徒に現地で学習されれば、より豊かな校外学習となるはずである。

[キーワード] 学校行事 校外学習 フィールドワーク 上野公園

1. はじめに

JR上野駅を公園口から出て上野公園に入り、動物園前交番を右折し、東京国立博物館前の噴水広場に集合する。本校3学年の校外学習の際には、例年、そのような指示が出ているようだが、これでは宝の山にいながら宝を避けて歩いているようなものである。

東京国立博物館は、上野公園内にある。しかし、最も近いJRの駅は上野駅ではなくて鶯谷駅である。東京国立博物館は徳川家の菩提寺である寛永寺の本坊があった場所に建っているが、鶯谷駅から東京国立博物館に向かって歩くと、かつてそこがお寺であったこと、そして、そのお寺は山の上に建てられたのだということがよくわかる。

上野駅を利用するのだとしても、公園口から出るのではなくて「しのばず口」から出る。そうすれば、改札口を出た後、長い階段を使って台地の上に上がらないと東京国立博物館に到達できないので、上野公園が台地の縁にあるのだということを自分の足で体験できる。その「台地」というのは、本校もその上に建っている「武蔵野台地」である。

さらに、もし上野公園に公園の南側（湯島側）から入れば、目の前には台地の谷にできた「しのばずの池」があり、池では「都鳥」を見ることができ、池に沿って北上すると清水観音堂があり、その横の階段を上がると花見で有名な桜並木があり、桜並木を抜けると東京国立博物館の正面にたどり着くことになるのだが、このコースをたどれば本が一冊書けるぐらいの膨大な見どころがある。「見どころ」というのは、たんなる「観光」ということではなく、生徒たちが社会や国語の授業で学ぶ内容の「現場」なのである。

博物館や美術館の展示物とは異なり、「現場」にある「現物」には何の説明書きも付いていないことが多い。しかし、説明書きが無いということは、歴史と現在とが直結している証拠である。本校の3学年の校外学習は、歴史と直結した現在を学ばせる絶好の機会であるということを本稿で述べていきたい。

以下で、校外学習で歩く地域にどのような見どころがあるのか、その概要をまとめていく。基本的には今年度生徒が歩いたコースを紹介しながらそれに沿って解説を加えるが、今後の校外学習の参考となるように、解説はコースを多少外れる内容も話題として取り上げることにする。

2. 東京駅

3学年の校外学習では、基本的な活動場所が上野公園なのにもかかわらず、東京駅を出発点にするかゴールにするかのどちらかにしているが、それは修学旅行の集合場所が東京駅丸の内南口の団体待合所であり、その場所を生徒に確認させるためである。中央線を降りて最も上り寄りのエスカレーターを降りればそこは丸の内南口改札の目の前であり、改札を出て直進して階段を降りれば団体待合所なのだから、本当に事前の下見が必要なのかどうかは疑問であるが、せっかく東京駅に足を伸ばしたのだから、丸の内南口周辺だけでも、いくつかのポイントを見学させると良いだろう。今年度は、生徒を東京駅丸の内南口団体待合所に9時に集合させたが、生徒には集合前に指定されたポイントを見学してくるよう指示を与えた（p.224参照）。

江戸期には大名屋敷が並んでいた皇居前が、明治期には誰もその土地を手に入れたいとは思わないような広大な荒れ地だったなどということは、現在ではおよそ想像がつかない事実である。その地に6年の歳月をかけて建築家辰野金吾の設計による赤レンガと白い花崗岩による3階建ての駅舎が完成したのは1914（大正3）年である。1923（大正12）年の関東大震災ではほぼ無傷であった駅舎が1945（昭和20）年の東京大空襲では大きく破損。2007（平成19）年から2012（平成24）年に修復工事が行われ、2014（平成26）年に開業100周年が祝われたことは記憶に新しい。

中央線を降りて丸の内南口へ向かうと、改札を出る直前に駅舎の歴史を紹介した展示と創業当時のレンガ壁を見ることができる。丸の内南口の改札を出て見上げると美しいドームが目に入るが、このドームはかつての姿を復元した部分と新たに設計したものと組み合わされたものになっている。

このドーム下は、原首首相の暗殺現場として有名であり、丸の内南口にはその説明板が置かれ、暗殺された場所（床）にはそれを示す小さな印が埋め込まれている。1921（大正10）年11月4日、京都の会合に出席するため、19時30分発神戸行きの急行に乗ろうとしていた原首首相を、群衆に紛れていた青年が短刀で刺したのがこの場所である。なお、東京駅構内の新幹線乗り場付近には、1930（昭和5）年11月14日に浜口雄幸首相が銃撃された場所あり、同様に床にその印が埋め込まれている。

生徒は班別行動の形態で東京駅を出発する。例年のパターンであれば、山手線等を利用して上野駅に向かうのであるが、今年度は中央線で御茶ノ水駅に向かった。御茶ノ水駅を北上し、湯島口から上野公園に入るルートを歩かせる予定だからである。

なお、中央線の電車が御茶ノ水駅に到着するあたりで、車窓から湯島聖堂と昌平坂が見えるのだが、電車に乗っている段階では生徒はその存在に気づかないかもしれない。

3. 御茶ノ水駅とその周辺

御茶ノ水駅は壕の内側の崖に作られた小さな駅なので、生徒をここに留まらせておくことはできない。無事に到着したことを確認するためのチェックポイントとしたいところであるが、それは無理なので、到着した班から聖橋口改札を出て北上させ、湯島聖堂を西側入り口から入らせることにした。

御茶ノ水駅を降りて聖橋を渡ると橋の下に渓谷があり、そこを丸ノ内線が走る姿を見る能够があるが、これは人工の渓谷である。二代将軍徳川秀忠の時代に、水害防止用の神田川放水路と江戸城の外堀を兼ねて、台地を削って東西方向に掘割が作られたのである。その頃、その北側にあった高林寺から泉が出て、この水を将軍のお茶用の水として献上したことが、お茶の水（駅名としては「御茶ノ水」）という地名の由来である。

現在の御茶ノ水駅はお茶の水橋と聖橋の間にある（当初はもっと西寄りにあった）が、この二つの橋は関東大震災後の復興事業として作られたものである。なお、「聖橋」という名前は、湯島聖堂とニコライ堂という二つの宗教施設の間にあることから付けられたものである。

御茶ノ水駅周辺は歩道が狭く、人の往来が激しいので、ポイントに教員を配置して生徒が速やかに移動するように促す必要がある。

3. 1 湯島聖堂

生徒たちは湯島聖堂に西側入口から入り、中を見学した後に南側にある正面入口を出て次の見学場所へ向かう。正面入口付近は広い空間なのでここをチェックポイントとした。各班の点呼をすると同時に次の見学場所である神田明神への道を伝えると生徒は道を間違えずに進むことができる。

湯島聖堂は、1690（元禄3）年、五代将軍徳川綱吉によって建てられた孔子廟であり、後に幕府直轄の学問所となった。林羅山が上野忍が岡（現在の上野恩賜公園）の私邸内に建てた忍岡聖堂「先聖殿」に代わる孔子廟を造営したのがそもそもの始まりであり、1691（元禄4）年に現在の場所に移転した。その後度重なる火災と幕府の実学重視の影響を受けて荒廃するが、寛政異学の禁により聖堂の役目も見直され、1797（寛政9）年に、林家の私塾ではなく幕府直轄の昌平坂学問所となつた。「昌平」とは、孔子が生まれた村の名前で、孔子の教えを伝える学問所にちなんで「昌平坂」という地名が生まれたのである。

湯島聖堂には「日本の学校教育発祥の地」という掲示があるが、東京大学、筑波大学（東京師範学校）とその附属学校群、お茶の水女子大学（東京女子師範学校）とその附属学校群、文部科学省、東京国立博物館、国立科学博物館などのルーツはすべてここにあると言って良い。つまり、もともと湯島聖堂内にあった組織が、後に、それらの組織になつていったのである。

敷地内には、世界で一番高い孔子像があり、また、「楷書」ということばの語源となった「階の木」もある。

湯島聖堂正面入口を出て東方向に少し進み、風夢堂の手前を左折すると、その道が昌平坂である。ここで坂を上がるということは、台地の下から台地の上に進んでいるということである。

3. 2 神田明神

昌平坂の緩い坂を上り突き当たりを左折すると神田明神の立派な鳥居が目に入る。この近辺は道路の反対側に行くための横断歩道が少ないので少し遠回りをしてから神田明神の境内に入ることになるが、鳥居を抜けたあたりから江戸の雰囲気が濃厚に漂い始める。神田と言えば東京下町の中心であり、そのさらに中心である神田明神が台地の上にあるという事実はなかなか興味深い。

神田明神は、大己貴命（オオナムチノミコト、だいこく）と少彦名命（スクナヒコナノミコト、えびす）と平将門命（タイラノマサカドノミコト）を祀る神社であり正式名称は「神田神社」。神田祭を行う神社として有名である。もとは平将門の乱を起こした将門の首塚の近くにあったが、1616年（元和2）年に現在の場所に移った。神田明神といえば平将門と深い因縁がある神社ではあるが、1874（明治7）年に明治天皇が行幸するにあたって、天皇が参拝する神社に逆臣である平将門が祀られているはあるまじきこととされて、平将門が祭神から外された。将門が祭神として復帰するのは1984（昭和59）年のことである。

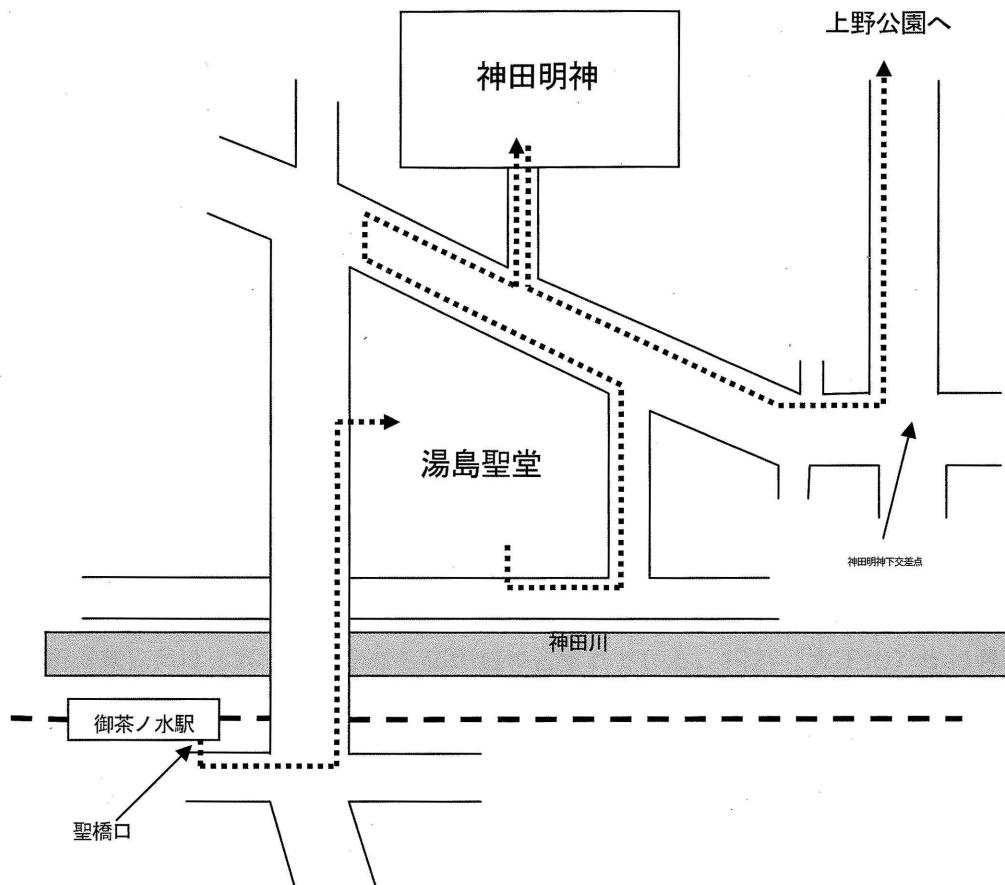
神田明神は様々な物語の舞台としても有名で、たとえば、野村胡堂『銭形平次 捕物控』の銭形平次や秋本治『こちら葛飾区亀有公園前派出所』の両津勘吉はフィクションの中で神田明神下に住む有名人である。

なお、本校では1学年の修学旅行で成田山新勝寺を見学しているが、神田明神と新勝寺は平将門の乱の際に「鎮圧される側」と「鎮圧する側」の関係にあり（新勝寺で鎮圧のための祈祷が行われた）、神田明神を敬う者は新勝寺を参拝してはいけない（それによって将門が苦しむ）という言い伝えがある。

生徒は神田明神を見学した後、鳥居を出て東方向に進み、神田明神下交差点を左折して北上する。後はひたすら直進すれば、上野公園の南側に到着することになる。

この神田明神から上野公園への道を進むと、台地の縁を歩いていくことになるので、歩いている間ずっと左側には急な上り坂、右側にはなだらかな下り坂が見える。左側の上り坂の上には、神田明神や湯島天神があり、右側の下り坂の先には秋葉原や浅草の低地が広がっているのである。

また、途中「看板建築」が現在でも残っている（住居として使われている）箇所があるので、ぜひ生徒に確認させたい。看板建築というのは関東大震災後に流行した建築様式で、建物の前面だけが洋風の独特的な建築である。小金井公園内のたてもの園に数軒保存されているが、実際に使われている建物は数少なくなってしまった。



4. 上野恩賜公園（上野公園）

東京駅を出発して1時間から1時間半くらいがたち、生徒は上野公園の南側（湯島口）に到着する。ここから生徒は、「1. はじめに」で最後に述べたコースを進んでいく。つまり、「しのばずの池」の東側を北上し、右手の階段を上がって清水観音堂の横を通過し、桜並木を抜けて東京国立博物館正面の大噴水へと向かうのである。

上野駅ができたのは1883（明治16）年だが、それより7年前の1876（明治9）年に上野恩賜公園（上野公園）は開園した。日本初の「公園」の誕生である。1969（明治2）年、医学施設を建てる場所として上野の山を紹介されたオランダ人軍医のボードワインが、その地を公園にするべきであると考えたことから公園化への動きが始まった。他の目的で上野の山を利用しようとしていた文部省や陸軍省の動きを抑えたのが、欧米を視察して都市には公園が必要であると判断した内務卿の大久保利通である。徳川將軍家の菩提寺の跡地に、近代化のシンボルとしての公園を作ったというところに明治政府の強い意図が感じられる。

4. 1 寛永寺

上野公園内に数多く存在する歴史的建築物は、建物自体とその中にある所持品とそこにいる人的組織などが移動したり統合したり消滅したりと複雑に変化してきたため、現在に至るまでの経緯を簡潔にまとめるのは難しい。寛永寺もまさにそうである。

寛永寺は、死者を弔うためではなく生きている者のために祈る祈祷寺として、二代将軍秀忠と大僧正天海によって建てられた。京都の祈祷寺である延暦寺が年号から名付けられたのと同様に、年号「寛永」から「寛永寺」と名付けられた。

三代将軍家光は父・秀忠と母・江（ごう）とは仲が悪く天海を慕っていたため、その葬儀は遺言に従って寛永寺で行われた。続いて四代家綱、五代綱吉の葬儀も遺言により寛永寺で行われたため、寛永寺は祈祷だけではなく回向（死者を弔うこと）も行う寺となった。そして八代将軍吉宗の時には日本最大の寺院となつたのである。

このような経緯を見ると、天海と徳川幕府の間に強い繋がりがあることは否定できないが、意外なことに、両者は様々なことに関して絶えず対立を続けていた。徳川幕府は寛永寺を徳川幕府の安泰を祈願するための寺院にしたかったのだが、天海は寛永寺を庶民に開かれたレジャーランドにしようと考えていたというのもその一つである。土地も資金も徳川幕府が提供したのであるから、天海の主張を徳川幕府が認めるはずはなく、結局、徳川幕府の援助は途中で打ち切られ、天海は私財と協力者の援助で寛永寺を作り上げていくことになる。その結果完成した寛永寺が現在の上野公園の原形である。

寛永元年のころの上野は鬱蒼とした森だった。現在でも上野公園を「上野の森」と呼ぶのは、かつて本当に森だったからである。天海はそこに京都を再現したのである。江戸の庶民たちは、それまで名前だけは知っていた関西の名所旧跡を、寛永寺に行けば見ることができるようになった。

まず、京都の鬼門を守る延暦寺にならい、寛永寺は江戸城の鬼門を守る寺であるとし、山号を「東叡山」（東の比叡山）とした。しのばずの池は琵琶湖である。京都の清水寺をまねた舞台づくりの清水観音堂を建て、清水寺の千手観音像を迎えてそこにまつった。また、京都の方広寺にあった大仏をまねて、現在の精養軒のあたりに大仏を立てた（第二次大戦中の金属供出のため、現在ではその顔だけが大仏山に残されている）。方広寺の大仏は豊臣秀吉が立てたものであり、方広寺の梵鐘に家康が言いがかりをつけたことが大阪の陣へと繋がつていった経緯を考えると、なぜ天海が徳川家の菩提寺である寛永寺に方広寺の大仏を立てたのかが不思議である。ミステリー小説が書けそうなネタだと言えるだろう。その他、京都の祇園（八坂神社）にちなんだ祇園堂や、琵琶湖竹生島の弁財天にちなんだ弁天島などを作り、さらには、吉野山からヤマザクラを取り寄せて植え、上野を桜の名所にするというようなことまで行った。

現在の上野公園全体がかつての寛永寺境内であり、境内には多くの建築物があったのだが、それらの大部分は幕末の上野戦争で失われてしまった。現在の本堂は川越の喜多院本地堂を移築したものである。現在も残る建物でこれまでに話題にしていないものとしては、五重塔と旧寛永寺本坊表門が有名である。

五重塔は1631（寛永8）年に下総佐倉の城主土居利勝が寄進したものである。この塔はわずか8年後の1639年（寛永16）年3月に焼失したのだが、再び利勝が寄進を申し出て、同じ年の11月に再建が完了したと言われている。この規模（高さ36メートル）の塔をそれほどの短期間で完成させるのは不可能だという説もあるが、様々な記録と照らし合わせると、これは事実であるらしい（少なくとも間違いであるという証拠は出ていない）。

現在の東京国立博物館正門の東に旧寛永寺本坊表門が残されている。この門は1882（明治15）年までは博物館の正門として使われていたが、現在の本館が建った1936（昭和11）年に現在の位置に移築された。門扉には大小たくさんのまるい穴が残っているが、これは彰義隊の戦争のときに弾丸が通った穴である。当時の弾丸は清水観音堂に展示されている。

一番遅い班も午前11時ごろには東京国立博物館前大噴水に到着した。ここでチェックを受けた班のうち半分の班は東京国立博物館へ、残りの半分は東京国立博物館以外の場所に見学に向かった。半分にわけたのは、東京国立博物館の混雑を避けるためである。

今回のように比較的長距離の移動をさせていると、早い班と遅い班との差が非常に大きくなるので注意が必要である。今回の場合は、早い班と遅い班とでは到着時間に1時間近い差が生じた。しかし、早い

班は遅い班を待っている必要は無く、すぐに自分たちの見学場所に向かった（予定よりもゆっくり見学できるのである）。また、到着が遅い班も急ぐ必要は無く、上野公園内での午前中の見学時間である1時間半は当初の計画通りに確保されているのである。

4. 2 博物館と美術館

生徒は12時半に上野公園内の午前の見学を終え、公園内で昼食（お弁当）をとった。午後は1時半から見学を開始した。午後の見学時間も1時間半である。午前中に東京国立博物館を見学した班は午後は東京国立博物館以外の場所に、午前中に東京国立博物館以外の場所を見学した班は午後は東京国立博物館に向かった。

上野公園内の博物館と美術館は、どれも1時間半程度では回りきれないほどの豊富な展示品を備えている。そのため、美術や社会の授業の中で事前に見学のポイントを聞いた上で見学することになる（p.224参照）。

東京国立博物館の創立は1872（明治5）年とされているが、始まった場所は現在の寛永寺本坊跡ではなくて、お茶の水の湯島聖堂である。全国から600点あまりの物産を集めて展示されて開かれた博覧会がその始まりである。現代の感覚では、全国の物産を集めて展示をするということにどういう意味があるのか理解がしにくいが、欧米の先進国を直接目にした大久保利通が近代国家建設のために産業を興す必要性を感じて開いたのがこの博物館であり博覧会だったのである。博覧会は2ヶ月弱の開催期間に15万人（1日平均3000人）が訪れたという。上野に国立博物館の前身である博物館が開館したのは1882（明治15）年であり、同じ年に動物園も開園した。

国立科学博物館もまた湯島聖堂と深い関係にある。1876（明治9）年に日本初の教育博物館が現在の東京藝術大学音楽学部の場所に建てられた。動物の剥製や各種機械などが展示されていたが、財政危機により閉館。展示品は帝国博物館（のちの東京国立博物館）に移され、土地と建物は東京美術学校（のちの東京藝術大学）に移管された。博物館の組織は湯島聖堂に移され、その後、1932（昭和7）年に新しく開館した国立科学博物館と合体した。

美術館としては、国立西洋美術館や東京都美術館などがある。国立西洋美術館は建築家ル・コルビュジエの設計による建物で、2016（平成28）年に世界遺産に登録されたことで話題を集めた。1959年に完成したこの建物は、美術品の増加とともに建物も増築していく「無限成長美術館」という概念に基づいて作られ、らせん状の階段や1階部分を柱だけで構成する「ピロティ」などが特徴的である。東京都美術館は、東京文化会館とともにコルビュジエの弟子前川國男が設計した建物で、1975（昭和50）年に完成した。

上野公園内にある博物館と美術館は、その展示物だけではなくて、建物自体も見学の対象とすべきものである。建物自体を見学の対象とすべきという点は、博物館と美術館以外の建物、たとえば、東京文化会館、旧東京音楽学校奏楽堂、旧博物館動物園駅などにも言えることである。

4. 3 西郷隆盛像

上野公園内には、博物館や美術館のように見学にある程度まとまった時間が必要な施設の他に、短時間で見学が可能な数多くの銅像や碑などがある。その代表的なものは何と言っても有名な西郷隆盛像である。これらの銅像や碑などを巡ることによって、生徒は見学時間の調整を有意義に行うことができる。

日本人で西郷隆盛像を（たとえ見たことがないにしても）知らない人はいないが、なぜ西郷の像が上野公園にあるのか、その理由を知っている人は意外に少ない。1890（明治23）年に西郷の像を建てる計画が持ち上がったとき、建てる場所は皇居前だったのである。皇居前に建てるとは当時の宮内大臣も許可していたのだが、なぜか突如としてその許可が撤回された。理由が明かされないまま突然許可が撤回されたというところに、西郷隆盛という人物の経歴が象徴的に表れていると言えるだろう。

西郷隆盛は明治維新の大元勲でありながら、1877（明治10）年には西南の役で朝敵になり、死亡してしまった。その後、大日本帝国憲法発布にともなう大赦で復権し、1898（明治31）年には現在の像が作られた。像を上野公園内の山王台という突端の場所に建てることは、発案者である薩摩出身の樺山資紀と、当時の帝国博物館館長が相談の上決定したことである。上野戦争で西郷隆盛は薩摩軍を率いて彰義隊と戦ったが、西郷の像がある山王台には戦死した彰義隊士300人ほどの遺体が埋葬されている。

午後の見学を終えて、生徒は3時に東京国立博物館前大噴水に再び集合した。これで、見学はすべて終了である。全員が集合したところで、全体会を行い、解散となった。

5. 上野駅

解散後、生徒はJR上野駅に向かい帰宅した。全体会が終了したのは3時20分ころでまだ早い時間なので、その後、個人的に上野公園内を散策した生徒もいるようである。

伊賀上野にその姿が似ているところから名付けられたとされる上野は、かつては日本有数の繁華街であり、上野の町は、「北の玄関口」と呼ばれた上野駅を中心に広がっている。

上野駅の内部が非常に複雑であることは昔から有名で、改築が行われて駅全体の見通しが良くなつた現在に於いても、利用者になお混乱を与え続けている。通常、どんな建物でも地上への出口は1階にあるが、上野駅ではそもそもどこが1階なのかがわかりにくい。たとえば、地面の高さにある「しのばず口」から改札を入り、階段を上がって上の階に行き「公園口」を出ると、そこはまた地面なのである。上で述べたように、上野駅は武蔵野台地の東端の縁（「上野台」と呼ばれる場所の東側）に建てられているため、台地の下に出る出口と台地の上に出る出口とがある。この台地の上に出る出口は、駅の正面に位置する「しのばず口」である。

しのばず口を出て、アメ横に背中を向けると、目の前にはガラス張りの「UEENO3153」というビルが「崖のように」そそり立っている。このビルはかつて「聚楽台」という名のレストランで有名だったビルだが、崖のように見える、のではなく、本当に台地の縁にある崖なのである。このビルの屋上の位置にあるのが西郷隆盛像であり、このビルの中のエスカレーターを使って台地の上に上ることもできる。

前述のように、東京国立博物館から最も近い駅は鶯谷駅なので、生徒に鶯谷駅から帰るように指示を出しても良かったかもしれない。あるいは、上野公園から台地を降りてアメ横方面に向かわせ、アメ横を通って御徒町駅に向かわせるという方法もあった。アメ横は見学地として興味深い場所であり、御徒町駅は上野駅から徒歩で10分程度の距離のところにある。

6. 終わりに

校外学習のルートとその周辺には、以上で述べたもの以外にも数多くの「現場」が存在する。東京を歩くということは江戸と東京の歴史の上を歩くということである。たんに目的地を目指して移動するだけでは、貴重な学習の機会を失っているという点であまりにもったいないと言わざるを得ない。今後、校外学習をさらに豊かなものにするためには、まずは教員自身が好奇心を持って「現地」を歩いてみることが大切である。

湯島聖堂前にある洋食店「風夢堂」が、この原稿を書いている2017（平成29）年2月17日に閉店した。本校68期の校外学習の時だけでなく、様々な機会で頻繁に教員が利用していた店なので、その閉店は非常に残念である。

【参考文献】

- NHK「プラタモリ」制作班（監修）（2016）『プラタモリ 2 富士山 東京駅 真田丸スペシャル（上田・沼田）』
KADOKAWA
秋本治（2004）『両さんと歩く下町 『こち亀』の扉絵で綴る東京情景』 集英社
浦井正明（2015）『上野公園へ行こう 歴史&アート探検』 岩波書店

黒澤達矢 (2011) 『首都東京・ターミナル駅断面透視図』 P H P 研究所
皆川典久 (2012) 『凸凹を楽しむ東京「スリバチ」地形散歩』 洋泉社
『散歩の達人 濃い上野』 (2013) 交通新聞社
『東京人 8月号 特集：東京地形散歩』 (2012) 都市出版

【社会科の教材から抜粋】

以下の課題のうち、指示に従って、報告書を書いてみよう。

～丸の内南口改札を出る前に～

0. 浜口首相遭難現場レリーフの場所から、駅の床に記された事件の跡のマークのある場所の位置を説明しよう。
1. ヨーロッパ大都市の中央駅や新橋、横浜、上野などそれまでの日本の主要駅には見られない、東京駅の構造上の特徴は何か。
2. 建設工事の段階では、東京駅は何と呼ばれていたか。
3. 関東大震災で、東京駅はどのような役割を果たしましたか。
～松の内南口改札を出た直後に～
5. ドーム部にある戦国大名の兜型のキーストーンは、誰の兜をモデルにしていくつはめ込まれていますか。
6. 東京駅の基礎に打ち込まれていた丸太の木は何でしたか。
7. 東京駅の南北ドームが焼け落ちたのはなぜですか。
8. 原首相遭難現場レリーフの場所から、駅の床に記された事件の跡のマークのある場所の位置を説明しよう。

【美術科の教材から抜粋】

日本を知る。世界を知る。自分のルーツを知る。

— 東京国立博物館 鑑賞ツアー —

さあ、東京国立博物館にいきましょう。建築の迫力だけでなく、建物内部におさめられた数多くの所蔵品は世界的に見ても貴重なものばかりです。

数多い展示を大掴みに味わうことも鑑賞の一つのスタイルですが、ジャンルでも時代でも、何かにテーマを絞りじっくり味わうこともおすすめです。いずれにせよ、「自分はこれが一番好きだった」、「心魅かれた」の"イチオシの一品"と出会ってください。

東京国立博物館は全7館から成り立っています。今回は特にお勧めしたい本館と東洋館を中心にプリントを作りましたので鑑賞のヒントにしてください。また他のスポットについても簡単に紹介していますので参考にしてください。

＜本館＞ (→鑑賞プリントあり)

日本の美術・工芸全体の流れが凝縮された展示内容です。国宝や重要文化財がたくさん納められています。彫刻、絵画、陶磁、漆工、金工、武将の鎧、キリストン、刀、衣装、書、屏風絵、浮世絵・・・など、洗練された日本文化がうかがえます。